

『環境トピックス①』

【地球温暖化はすでに1.1℃上昇】

昨今、異常気象の発生頻度が高まっており、猛暑/集中豪雨等による災害・被害が身近に感じられるようになりました。2023年3月に気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は第6次統合報告書を公表しました。以下主な内容です。

・地球温暖化は人間活動が招いたこと。・世界平均気温は1.1℃上昇（1900年比）・温暖化は自然と人々に広範な悪影響を及ぼし損失・損害をもたらしている。・今後10年間にいう選択や対策は今から数千年先まで影響する。・温暖化の抑制や適応のためには現在より何倍もの資金投入が必要。

温室効果ガス排出削減に関する追加対策の必要性が改めて浮き彫りになりました。

【環境市場新聞：R5.夏季第73号より転載】

『環境トピックス②』

【家庭部門CO₂排出実態統計調査】

環境省は2023年3月、家庭部門の二酸化炭素排出実態統計調査（環境省 2021年度確報値）を公表し、前年度から4.9%減少しました。世帯当たり2.74t（前年2.88t ▲0.14t）でした。エネルギー種別の内訳は①電気：1.82t（66.4%）②都市ガス：0.42t（15.3%）③LPガス：0.16t（5.8%）④灯油：0.35t（12.8%）季節変化がわかる月別の集計では1月が最大で、12月～2月の冬季が年間排出量の36%を占め、暖房利用が要因と見られ、地方別でも世帯当たりの排出量は北海道が4.26tと最も高く最低は九州の1.95tでした。そのほか戸建ては集合住宅より1.8倍の排出量になるといった建て方、世帯人数、収入などの区別でも集計を行っています。調査は2017年度に始まり5回目、世帯当たりの年間排出量は初回との比較で14.4%（0.46t）減っています。

当金庫職員（家族含む）は『エコライフDAY』に毎年（年2回）参加しCO₂削減に努め意識を高めています。我々一人ひとりがCO₂削減を意識し実践することが明るい未来につながる（つなげる）行動となります。

【環境市場新聞：R5.夏季第73号より転載】



気象庁HP

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）

<http://www.data.jma.go.jp>



環境省HP

家庭部門CO₂排出実態統計調査

<http://www.env.go.jp>

『環境問題常識テスト』

★以下の問題にチャレンジして、環境知識レベルをチェックしてみてください。

〈答えは3面の最下段に掲載〉

1.2022年11月に開催された国連気候変動枠組条約第27回締約国会議（COP27）が採択した主な成果をまとめた合意文書は？
a.シャルム・エル・シェイク実施計画 b.グラスゴー気候合意 c.パリ協定 d.京都議定書

2.2022年12月開催の生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）で採択した枠組みのうち2030年までに陸と海のそれぞれ30%を保護・保全する目標を何という？

a.愛知目標 b.カルタヘナ議定書 c.30by30 d.パリ協定

3.2022年11月に中国およびスイスで第14回締約国会議が開催された「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」の通称は？

a.ワシントン条約 b.ウィーン条約 c.ストックホルム条約 d.ラムサール条約

4.2003年に設立され、今や国内の電力需要に占める取引量の5割近くを担う「JEPX」。この機関の日本語の名称は次のうちどれ？

a.電力広域的運営推進機関 b.日本卸電力取引所 c.電力・ガス取引監視等委員会 d.電気事業連合会

【環境市場新聞：R5.夏季第73号より転載】

『環境保全等へ向けた商品』（プライム）

カーライフプラン



*電気自動車・プラグインハイブリッド自動車・低燃費かつ低排出ガス認定自動車等の環境に優しい新車の購入を、金利の引き下げで応援しております。

安心リフォームプラン 「一家団欒」



*太陽光発電やエコ仕様の設備購入・設置・修繕、オール電化システムのリフォームにご利用いただけます。

SDGsサポートローン



*埼玉県SDGsパートナー制度に登録した方または登録申請をした方を対象に、金利を優遇した事業者向けの融資商品です。（埼玉県内4金庫合同企画）

100th Anniversary 川口信用金庫

<https://www.shinkin.co.jp/ksb/>

〒332-8686 埼玉県川口市栄町3丁目9番3号
TEL048-253-3333 FAX048-254-2665



このパンフレットは環境に配慮し、世界の森林資源の責任ある利用を保證する[FSC®]認証紙にベジタブルインク（植物油インク）で印刷されています。



第17号

令和5年11月発行

かわしんの 環境活動報告書



撮影場所：見沼田んぼ
撮影者：大和田保夫（土呂支店取引先）

かわしんは省エネ・温暖化対策等に積極的に取り組み、環境保全活動を実践しています。

100th Anniversary 川口信用金庫



SDGsとは、国連が定めた「皆一人取り残さない」持続可能な開発目標であり、17の目標と169のターゲットがあります。



「かわしん」は地域の未来につながる 経済発展と環境保全に貢献する 信用金庫を目指しています。

みなさま、こんにちは。

今年はいよいよ新型コロナウイルス感染症上の位置づけが変更され、経済活動は徐々に活気を取り戻してきました。しかしながら、今年も世界的な猛暑や豪雨などの異常気象が発生し、1月にはチリのメガ干ばつによる大火災、5月にはイタリアで1日半の間に6か月分に相当する雨が降りました。わが国でも6月に愛知県や静岡県など6県で台風2号と線状降水帯により、8000棟の家屋が被害にあい49名が死傷し、7月には鳥根県や九州地方北部、秋田県で記録的な大雨による被害や被害が深刻化しています。

当金庫は平成16年にISO14001を取得し地域経済の発展と環境保全の両立を目指し、これまで電力使用量の削減や廃棄物の分別、紙の使用量削減に継続して取り組み、こうした活動により「環境にやさしいかわしん」との評価をいただいております。また、令和2年4月にはSDGs宣言を行いテーマを、①環境保全②地方創生③社会貢献とし3つのゴールを掲げています。

「環境保全」については、省エネ・省資源による温暖化対策に向けた商品・サービスの提供や、環境に配慮した活動を推進する企業への支援、また、「埼玉県彩の国みどりの基金」「シラコバト基金」への寄附など行っておりますが、今後もこれを継続推進し、地域経済の健全な発展と地域環境の保全に貢献して参ります。

これからも、地域金融機関としての事業活動を通じた「環境保全」をはじめとする「持続可能な開発目標」に寄与する取り組みを、「環境報告書」などでご報告して参りますので、一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年11月

理事長 木村 幹雄



環境方針

I. 基本理念

川口信用金庫は、「堅実公正な経営に徹し、地域社会の繁栄に奉仕する」を経営の基本とし、協同組織による地域金融機関としての社会的使命と公共的使命を自覚し、全従業員が一丸となって地域の発展と環境保全に積極的に取り組みます。

II. 基本方針

1. 当金庫が行う事業活動が、環境に影響を及ぼす要因を的確にとらえ、技術的・経済的に可能な範囲で環境目的・目標を定めるとともに、定期的或いは諸条件の変化に対応し適宜レビューを行い、継続的に改善し、環境汚染の予防に取り組みます。
2. 上記事業活動が環境に影響を及ぼす要因の中で、特に、地域社会への貢献、中小企業経営再建支援、および福祉・環境を大切にすることの地元金融機関を目指した活動に重点を置き、地域社会との連携を強化しつつ環境保全に取り組みます。
3. 環境に関連する適用可能な法的要求事項及び業界行動指針等、その他の要求事項を順守します。
4. 一人ひとりが環境問題に対する認識を深め、環境マネジメントシステムの効果をあげる為、この環境方針を全従業員、又は当金庫のために働く全ての人に周知徹底を図ります。
5. この環境方針を金庫内外に広く公開します。

私たちの環境目標 令和5年度目標

I. 環境に有害な影響を及ぼすものへの削減取り組み

1	電力の使用	令和5年度の電力使用量を平成21年度比▲24%削減する
2	廃棄物の分別と排出	廃棄物の分別を推進するとともに令和5年度の物件費(別に定める費用)を平成21年度比▲24%削減し排出量の削減を図る
3	紙の使用・廃棄	令和5年度の紙費用を平成21年度比▲24%削減する

II. 環境に有益な影響を及ぼすものへの取り組み

1	既存の環境関連金融商品の拡販
2	新規の環境関連金融商品の企画・開発・販売
3	OA機器の効率的活用
4	コンプライアンス及び信頼性・健全性の確保
5	各種地域貢献活動の立案及び実行
6	環境関連のその他サービスの提供

『緑化推進事業』への協力

1. 「彩の国みどりの基金」へ200万円を寄附致しました。当金庫は、森林の保全整備や身近なみどりの保全・創出を積極的に進めるため、「環境クリーン定期預金」を販売し、販売額の一定割合に相当する額を寄付しております。平成19年(2007年)7月から、これまで25回募集し、販売総額は1,965億円、寄附総額は5,250万円となり、今回の寄付を通じて「さきたま古墳公園」への植樹を行いました。また、「シラコバト基金(埼玉県シラコバト長寿社会福祉基金)」の寄付金は、豊かな地域福祉づくり推進事業にお役立ていただきました。



2. 「フラワーロード 緑と花でつくる川口の元気!!」のスローガンの基、フラワースタンドの設置に協賛し川口市の緑のまちづくり推進に協力しております。



3. 地域の植栽事業、花壇の整備事業に協力致しました。地元の子ども会や商店会、企業が環境美化活動の一環として行っている植栽や花壇の整備を各支店の職員がお手伝いしました。



『エコライフDAY』への積極的参加

CO₂排出削減や地球環境保全の施策・取組みの推進のため、埼玉県と川口市が取組んでいる「エコライフDAY」にかわしんは参加しています。令和4年12月の「エコライフDAY/WEEK埼玉2022(冬)」には、役職員・家族633人が参加し、312万6347gのCO₂を削減し、令和5年6月の川口市「エコライフDAY2023」には、役職員・家族611名が参加、65万6711gのCO₂削減をはかりました。



『クールビズ・ウォームビズ』の徹底

地球温暖化防止対策として、環境省が提唱する「クールビズ」「ウォームビズ」の実施により電力使用抑制に努めています。具体的には、エアコン稼働の設定温度の遵守や夏の軽装、冬の柔軟な服装の選択等の他に各部店各々の工夫により、CO₂の排出量削減努力を行っております。



『はじめてます!エコドライブ!』*ふんわりアクセルスタート*

川口信用金庫は美しく豊かな地球を守るため、「環境・財布・人にやさしいエコドライブ」を実践していきます!「環境にやさしい...ガソリンの燃焼を抑えCO₂削減」「財布にやさしい...燃費向上によりガソリンの代節約」「人にやさしい...車間距離が取れるため交通事故の減少」川口市内で排出されるCO₂の2割は、車から排出されます。エコドライブはガソリンの燃焼を抑えてCO₂の排出を減らすことができる環境にやさしい取組みです。また燃費も約2割向上することで、ガソリン代も節約できます。さらに、車間距離が取れるため、交通事故の減少にも効果があり、安心して歩ける・走れる・住みよい街へとつながります。「ふんわりアクセルスタート」は最初の5秒で、時速20km程度が目安です。やさしい発進をこころがけるだけで10%程度燃費が改善します。小さな意識を習慣にすることで、あなたの運転が変わり社会が変わります。はじめてみましょう!エコドライブ!



令和4年度の事業活動・環境活動

●電力とCO₂排出量の削減

基準年の平成21年度の電気使用量315万7822kWhに対して、令和4年度の電気使用量は219万2316kWhと▲27万4928kWh・▲8.7%の削減を図っており、前年対比では▲27万4928kWh・▲11.1%と減少しました。昨今の温暖化による気象変動のもとではありますが、今後も冷暖房設備の稼働状況のきめ細かなチェック等により、更なる節電に努めて環境目標の達成を図ります。

●廃棄物の削減

事業活動に投入した全ての資源は消費され・廃棄されることから、物品の購入金額から廃棄物全量を把握しています。削減目標の基準年度である平成21年度(平成22年3月末)比にて、▲4,263万円・▲32.1%減少致しました。前年度比(令和3年度)も▲5,206万円削減しており今後も継続して削減に努めて参ります。

●紙の使用

削減目標の基準年度である平成21年度(平成22年3月末)比にて、廃棄物全体のうち「紙の使用量」及び「排出量」について検証しました。基準年度比 ▲1,689万円・▲18.7%減少致しました。前年度(令和3年)比も▲187万円・▲2.5%減少しており、削減効果は持続しております。